

---

# 愛おしきグリェンベルク

メロンビスケット

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛おしきグリウンベルク

### 【Nコード】

N9947Y

### 【作者名】

メロンビスケット

### 【あらすじ】

役目を終え機能を停止した一つの機動兵器、彼がもう一度目覚める時物語が始まる。ロボットと人間の戦場を舞台としたSFラヴ

## お別れ

「結局、付き合わせちゃて、ごめんね」

「気にする必要はないさ、それより君の方こそ大丈夫なのかい？」

「ん〜〜そうだね、後数分ぐらいなら、こつしておしゃべりできるかな」

「腹に風穴が空いてるっていうのにさ、数分持つなんて君は本当に人間かい？」

「失礼だな〜人間離れしてるのはわかってるけど結構傷つくな〜」

「それはすまなかったね、君にそんな繊細な心があるなんて長い付き合いだけど、今初めて知ったね」

「あ〜〜またそういうこと言う、私の乙女心はブローケンハートだよ〜」

「フッ」

「今、笑ったな、チクシヨウ、大体いつもいっも……………」

「ふうーそろそろ限界かな・・・」

「そっか」

「淡白だね、もうすぐ相棒が死ぬかもしれないのに」

「なんだい、優しい言葉でもかけてほしかったのかい？」

「うん」

「しおらしいな・・・まあいい、代わりになるかはわからないけど君に一つ告白をしよう」

「告白？」

「うん・・・僕は・・・君のことを愛してる」

「！.....！.....！」

「びっくりした？」

「びっくりした」

「そっか、なら死ぬ前に返事をくれるとうれしいな」

そうすると彼女は最後の力を振り絞るようにゆっくりと立ち上がり  
目の前のメインモニターにキスをした、そして小さな声でつぶやいた

「私も大好きだよ。愛しのグリユンベルク」

それを最後に彼女はゆっくりと力尽きた、そしてエネルギーのきれた僕も機能を停止した

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9947y/>

---

愛おしきグリウンベルク

2011年11月30日00時51分発行